

關東古戰錄

八



溪東古戦録卷之八



目錄

一 秩父権藤太送寄足利義連防戦

附 英士武藝勇力事

二 七星英傑集會 附 廿八勇士度

并 軍評定事

三 新館夜討 附 忍勢敗軍度

四 足利義連与成田下總守和睦

附 山形季照使節事

五 義連奥方出産男子出生

附 母公逝去并婦人等働事

關東古戦録卷之八

秩父槍藤太送寄附義連防戦秩父討死之事

及武剛用土山と云ふ所小盗賊の張本秩父槍藤太と云ふ者あり剛強にして智謀あり是も盗賊四百人より餘り近郊の大將も其勇名を憚りて捨置ける可よめて一諸侯の如く威を震ひ傍若無人よりりけるが警塚熊太郎世度槍化太郎を取立を於て造営して旗を上るとめて其下の盗賊を集め尚國に於て我と警塚と諸人同様と稱して怒まて其向のなり然る小態太郎吳人を取立て兵を何げんとす必は盗賊の名を清めて之を加らずして諸侯とならん我伯よ於りて山賊は折果んこと甚恨れ我亦友領家再貞と号して義兵を揚尚國を切腹人と號す事

始に熊谷へ押寄て油沼の所を攻陥す。熊谷何と働くと
 も忽に討捕べしと生れもあらぬ荒者ども二百餘人を
 せづりて、三股に備を立次身を平して押寄り、新設の
 義連新は住居ありても尾下め諸英いまも集をば
 焦廣く名士を撰と招さのひらるに。城戸持廣が執より
 て西田伊豆志賀を居下となり。西田の軍徒を以て
 深く悦ぶるものあり。根本惣へ石屋孫右衛門あはれ
 く馳参て、用土山の秩父控者なるありを告ぐれ
 ば義連大に驚きさのひ為明いまも来らず。三英惣とあら
 ざりよ。秩父小人救めてこれを防ぐる。甚老とことなりと。
 諸士の兵刃をさすものあり。一色時範進出て、君此地もあり
 のひて始ての我なり。望三は勇威をよさすんば、後來の働

心よ但をまぐ。某先よ進て命限りよお立バやハう追立ざ
 る事あらじと。望も上げふられバ。城戸持廣是を固てい
 り。よれ一色の河誰もさう思へども。君望の戦よ謀
 の軍と油沼あり。ハ女盗賊の働ゆると。上げすぬきんもは
 惜うらん。幸而田が謀よ從て正しき。務負をたす。何しとや
 されバ。一色も回や。義連伊豆よ向て計を同なりよ。而田
 怯で盗賊とハ云たり。秩父の軍畧侮り。平場の地
 地へ引受ての務負危うるべし。君途才までお馬ありて。一
 戦よ火教せん。思よ。前川を越て生頭といふ所あり。山林
 茂てお兵をたす。便也。お所よて戦はる。手務利疑
 たり。とよ命を定む。一番よ音浪。逸平七十人。二番よ大将
 義連。而田をり。め八十人。一色城戸ハ五十人。從て是を

左右の備より以上二百五十人、敵より泉崎行決二百餘人を残し、並に我を以て出立あり。拂曉より前川を以ると等しく、西田義連の近臣猪股十兵衛と云ふ早送の達者を付て、水田是より乃を急先の様子を見切べし、考ふる小款勢、このときを以て、敵の備をらるらるるに、立由て人数の多寡備の極多を述べしと、中後屯、猪股於豫なく池行あり、是より隊伍を揃へて、勢より乃を押し、一時計ありて、猪股一糸より近海り、款勢三百人をかり、備を堅くして、前面一里餘も近附べし、楯板をつらね、弓の兵多ければ、必勝負は勝て、楯板を突垂へ、矢軍を以て勢を折んと謀るなり、人と委細に詳へられ、西田これを以て、義連より向て密に計を言上し、一色を招て、乃を替て敵の後へ廻らし、め音浪より奈と

初めの勝負を吞せ、城戸をたよをく備へ、義連二見も進て、是より足並を揃て、江河をせよ、備より白勢より押し、た右山林をい打れて、是場より、此地まで、西軍は、こと行進け、まバ秩父陣、馬系す、人、使へ、足ゆる、ハ、誰人の備なり、ハ、某ハ、諸用、何つて、押せる、人数なり、如何なる、故あつて、正面に備らる、其名を、すんと呼られ、ハ、音浪、何くる、系ハ、控塚方へ、送勢、何あつて、途中と、人数を、差向り、當時、控塚他、まして、備より、の、尋常に、降氣せよと、大音より、言ハ、秩父より、遠平向より、尋常に、降氣せよと、大音より、言ハ、秩父より、と、突て、備ハ、上州の、音浪も、持化太郎は、絶せし、名も、死、農家を、五五して、主人と、頼むを、なり、と、我、持化太郎を、うら、殺して、汝等、を、より、小、な、と、向ふ、より、や、ハ、記、款、對

せんよりも。太師を擲て降参せよ。臣トこりて。石仕人
 と。悪さかんに。お噂がた。音浪怒て。悪人よ。向て。河より。目よ
 物見せんと。志先よ。進ぶ。七十人。正面よ。突くま。バ。秩父が。先
 手。ご。河と。崩れ。引取と。刃く。り。る。が。忽。楯板を。つ。さ。並べ。始
 も。築地。の。ご。く。ゆ。て。其。間。より。数。寸。の。弓。武者。矢。先。を
 拵へ。く。射。放。せ。バ。音。浪。大。音。と。て。一。回。よ。押。寄。て。楯。板。を
 突。破。せ。て。面。も。あ。ら。ず。欠。落。し。が。雨。の。ゆ。く。よ。射。お。ひ。矢。よ。
 一。軍。大。よ。逃。易。し。て。四。度。踏。よ。り。て。進。こ。ゆ。す。逸。平。志。と
 つ。く。ト。知。す。れ。ども。人。数。の。定。並。あ。る。れ。バ。侍。ら。り。あ。あ。と
 敵。の。先。手。楯。板。城。を。傷。し。嵐。の。ご。と。く。突。て。う。ま。バ。音。浪
 が。人。数。敗。軍。し。て。半。町。を。り。退。を。逸。平。太。刀。を。拵。持。て。さ
 た。ち。し。者。ら。も。あ。せ。く。や。呼。り。り。な。ご。う。勇。進。て。追。來。る。人

必に立向て。み。六。騎。忽ち。切。倒。し。勇。を。擲。つ。て。防。げ。と。も。敵。勢
 い。よ。く。盛。ん。し。て。竟。よ。お。負。志。り。を。秩。父。二。見。よ。引。添
 て。其。勢。を。拵。ま。よ。息。を。くれ。ず。に。二。陣。を。追。寄。せ。と。被。れ。前。楯
 を。う。ら。た。て。く。下。知。お。せ。バ。先。手。小。二。見。押。添。き。流。水。の。ま。矢
 の。堤。を。さ。る。が。ゆ。く。志。と。く。ら。よ。追。ま。れ。バ。音。浪。が。人。数。同。け
 靡。て。あ。ら。に。走。し。が。義。連。の。一。軍。を。地。よ。平。と。て。捨。を。つ。を
 旗。を。掩。て。壘。石。の。こ。と。く。備。へ。敗。軍。を。右。流。し。て。動。こ。ま
 追。來。人。数。是。よ。脚。て。足。並。ゆ。り。て。勢。も。ぬ。け。し。其。所。一。左
 方。の。林。より。城。戸。持。廣。が。一。軍。を。の。め。く。起。て。城。戸。志。先。よ。捨
 拵。び。じ。ろ。が。中。へ。突。て。入。四。角。八。方。に。放。り。し。せ。バ。秩。父。下。知
 て。二。見。を。以。て。城。戸。志。先。の。人。数。を。澤。揚。ん。と。な。り。し。る
 時。西。田。下。知。し。て。丈。掛。志。と。云。程。と。我。あ。れ。地。よ。平。と。し。る。人

教一回は起立て、急十太夫志願、一番は槍を入れて、從換
 は突つたは、何の心で、あるべき、秩父が先子、是も子
 く散礼するふ、城戸の進て精神を勵して、突て廻るふ、と柳
 城の神の如く、十二三張、突は、惣勢を、崩さ、我を
 とり、と、逃れを、秩父が、も、屈せ、二番備を、押中して、放軍
 を、左右へ、流し、楯板を、建つて、な、芝居を、令く、踏止り、西
 回人数を、豫放して、えの、如く、備をして、秩父は、向て、色を、揚
 び、軍を、尋考する、あ、ね、な、も、我、思の、歎、あ、ら、む、あ、れ、さ、ら
 此、勇士を、改教人も、本意、な、む、を、め、め、降、参、な、せ、と、申
 しば、楯、藤、の、齒、噛、を、な、し、僅の、放軍を、刃、て、勝利、と、な、れ、と、申
 う、み、り、れ、初、台、戦、は、勝利、を、得、二、度、の、勝負、を、引、揚、ま、し、互、角
 の、合、戦、何、の、屋、ま、ら、う、ら、う、何、う、ん、汝、試、は、は、備、を、破、り、ん、と、申

鉄壁の如く楯を連ね、弓率を揮、並て、勢、え、ん、て、備、り、り、お、田
 突、て、海、軍、畧、は、暗、し、前、を、知、て、後、は、勝、し、放軍、不、直、い、う、ん、覺
 悟、を、得、せ、と、其、詞、い、ま、し、強、う、ら、う、ん、秩、父、が、備、の、後、り、り、一、ま
 の、人、數、押、寄、て、先、は、一、色、時、範、獅子、奮、迅、の、勢、を、得、大、太、刀
 を、廻、して、あ、ら、う、を、幸、小、難、立、れ、バ、秩、父、が、人、數、震、慄、さ、り、り、の
 と、云、て、崩、立、ハ、前、り、り、の、城、戸、旁、浪、楯、板、を、踏、倒、し、て、一、勢、は
 強、り、れ、バ、惣、軍、大、崩、と、な、り、て、右、佐、左、佐、は、敗、れ、れ、バ、秩、父、も
 按、よ、相、遠、し、て、一、ま、の、は、場、を、退、ん、と、る、引、返、し、廻、出、る、我、一
 色、一、文、字、は、弛、付、て、馬、上、ま、て、む、び、と、組、ま、ら、う、さ、は、何、へ、投、し、
 せ、バ、秩、父、中、ま、て、ら、り、と、返、り、足、踏、な、成、す、を、城、戸、持、廣、
 を、引、寄、て、楯、板、を、後、さ、ぬ、へ、突、抜、ハ、根、本、楯、之、ハ、さ、ら、付、て、首
 を、さ、る、号、浪、い、う、ん、て、先、は、進、て、追、討、せ、れ、バ、殘、軍、過、半、う、ら

死なれ西田人教を引續めて備を立直し隊伍を祀す伏
 隠くは練上りまは義連軟弱斜なるま西田が軍配度よ叶ひ
 一色城戸を始とて諸士の勇武を及なり事始りしはよ
 長尾之英士集會せハ大業正よなるやと。新館へ立寄り
 高尾を圍て賞を引ひのひらる所へ。長尾始山形小楠麻呂
 二鶴塚も来り集て務軍を及。為明西田が来配を貴美
 なるたれば。伊豆ハ不明の官よ枕しを耻謝して。上下軟毒
 をぞよりふる。一日義連酒宴を設て。長尾始五英と外
 の勇士を餐し與よられて。廣庭よ五拾貫目の石を二
 つならへ置て。是を擽めりよ。諸士敗くよ是をうこり
 せらも快く是を揚ることあり。日。竹沢平治泉岬を脱ハ
 走り出た。たは並右の石を一回よ引起し。目より言く

上て下に垂て退り。諸人驚るるよ。音浪逸平淡回五尺り
 昏りこれを指上り度と下して。神色憂び。是をきて皆感
 一過り。根中伊之ハ流中右塔立出て是を及して。廣庭を
 一回り。目立ゆり。稍癒て退り。志願者。相門倉半右衛門
 同く指擽して。新橋よ走て。女も癒え。のりよ。とて退
 ぬ。次ハ鶴塚。然る所。ゆりよ。とて。女をひ。彼石を引起し。
 弓をひて。とて。揚。扇を脱て。庭を廻て。えの。由
 よ。下。り。げ。な。く。庭。よ。ゆ。れ。が。上。下。と。の。怪。力。よ。う。り
 あり。掛。も。と。り。よ。若。者。万。十。四。歳。富。次。若。十。五。歳。女。人。せ。あ。く
 と。摩。よ。も。と。双。方。の。石。を。引。起。し。な。ん。が。く。是。を。指。擽。て。退。き
 くれハ。諸。人。同。音。よ。これ。を。強。し。義。連。甚。は。表。あ。の。て。倒。近。く
 倒。て。これ。を。費。す。久。ハ。長。尾。も。是。を。仰。き。立。て。感。し。未。だ。母

とき勇士なりともありふ。二人面目を施して恩を謝した
 也。夫より入替く是を捨てて去り奉りてせむる者五七人より及
 べり。義連これを斬りて今より五七人君側よ在て左右
 を守護せむと懸言有れを。惣塚下伏して謝恩を
 す。別よお田伊豆を召て。汝は五七騎の座よありて指揮
 をなす。各其力を盡しめよとあれば。お田首として言命附
 し。かゝることいへども。新衆の某り指揮勇士何ぞ。洗んやと諍
 違ひり。されば。惣塚原河をせりて。君命と云。お田が智謀
 惟の其下知は。淺へきとや。されい。勇士一同は。肯じくと。呼
 べり。されば。義連大は。悦のひ。お田も。再振して。あれを。更り
 能序なりと。返明下知して。五七騎の勇士は。射馬劍槍の術
 を。早されば。い。の。領。掌。して。各。其。長。を。各。其。長。を。各。其。長。を。

野りり。まよ。皆。元。庸。不。剛。の。妙。あり。され。ば。大。將。ら。う。め。長。尾
 五。英。真。は。ま。あ。り。て。昔。代。の。見。相。な。れ。なり。と。威。色。及。ふ。い。さ。ら。し。
 ら。れ。ば。勇。士。軍。一。同。は。申。り。る。い。掛。る。因。り。五。英。の。術。を。見
 ず。て。其。神。を。あ。る。べ。し。と。い。ふ。義。連。下。知。あり。て。各。の。力。量。武。義
 とも。元。な。り。す。と。い。ふ。も。其。長。を。以。て。諸。士。よ。ふ。す。所。と。
 あり。され。ば。五。英。存。後。して。一番。よ。小。楮。麻。鴻。座。上。へ。立。出。て。
 二人。相。對。して。双。引。を。以。て。其。術。を。勵。す。一。上。一。下。一。往。一。來。
 電。光。の。ごと。く。亦。石。火。よ。似。り。二人。の。姿。あ。る。が。如。し。と。皆
 も。眼。中。よ。ま。ま。ら。ず。半。七。郎。竜。の。蒼。海。よ。躍。る。威。を。震。へ。ば。
 悪。次。郎。席。の。心。探。は。嘯。聲。を。現。し。半。時。は。かり。の。太。刀。討。よ。上
 下。夢。の。ごと。く。現。の。如。し。て。称。嘆。の。色。八。方。よ。起。て。志。堅。意。壯
 浪。中。右。指。水。上。忠。藏。な。り。と。劍。術。の。達人。と。も。威。服。して。息。よ。元



人よあらざと斬す二番よ山形八郎馬を馳之秘曲を教
ら矢を射て是を射るの勢ること風の如く矢の花こと
流星の如く追立追廻し前後左右百發百中一時心うり
て下馬なりけれハ一同の威色雷の如く内田主水宇津
之助千兼馬と女等の強らの射子荒馬宗を休して其妙を
慕ふ三番又城戸次郎太郎槍を提て庭上よあれをきふ
餘の槍刃折と一様りて女ももまき比種先ハ急雨の降
り如く進退ハ浮雲の風よ後よ似と彩嶽三枚を重て積
神を勵してあれをつくよ朽る本を抜ぐ如く突と云と
も其強とあらざ其種先をみるものなり、嶽を取て忍れ
ハ三枚花後七八ヶ所の穴あり諸人狼を喰し戦場にて
槍先よ向ふ者誰の生て帰る處よとまら一同是よ激嘆を

十六丈泉田六郎安達助ハ下槍術の名あふ勇士死を叩
て感慨なれ四番よ一色太郎たぬと静くと庭よ出て庭
の石を左右のよまて二つながら引起し左右よらりと槍
を七數十遍のらめて、その所よ立寄り眼を閉て諸士の
方を造と白眼ハ諸人方射とくまらる如く、毛骨寒く立
て再びあれをみる者なし、と腕ハ岩石を奪るるりごとく
あはハ鉄柱をまらるが如く、左右の兎懸逆松よ立て針を
うへらる如く眼光輝くとして目よゆる鏡よ向ふが如く、
左右の石を静くをり、完膚と笑て退きられハ槍塚のめ
不通の大力ども膽裂心摧るよ似りられバまして其外の
諸士茫然として神怪兎歎と逢らる如く、一言を吐者なし、
義連大いさこめハ、廿七歳の武術怪力比類なき五英の

柳よむてハ、神出鬼没と謂つて、一と為ぬよ、向て五英ハ、涉
辺下知して其神妙をあつらふさうめ、側たはの勇士ハ、西田指揮
して其力を盡さくめハ、怒くハ、海内ハ、指つて者あらんやと
満面ハ、欽喜の色を露く、人のハ、長尾以下拜謝してをのく
退出して者所ハ、帰るなり

七星之英傑集會附 廿八騎之事

昇軍評定之事

去程ハ新館ハ、六英ハ、いじめ廿八勇士義黨二百五十人其
外の士卒三百人一時馳集り、大將足利九京亮美
連活達くわつだつの量りやうを彫あ、謀臣長尾監物為的龍席りゆうじやくの五臣一色太
郎九清門時範城戸次郎太郎持廣山形八郎季照小楮半七
郎鹿島悪次郎是なり、いつとも萬丈不為の英士是が所謂

七星の化育凡人不測の智勇一時集會して其器をあつら
天徴証へくす不思議なり、次中地、其外西田伊豆守
塚熊右衛門平治泉崎主税芳浪逸平原十右史志賀義持
石見源右衛門根中伊三ハ、濱田五郎守多儀右衛門千葉馬
助右衛門九左衛門安達助八泉田六郎水忠藏内田水
滋野右衛門猪俣十左衛門長茂右衛門方富沢吉田合吾門
倉平右衛門本津伴右衛門浪合久八百九十宇津蔵之
助以上忠義の勇士よて義連の親兵廿八騎と号し、為側
を放す一騎当千の者どもなり、其外騎士歩率兵器備具令
く備せて一城を保の勢既にあつたり、時ハ城戸山形
進出でて、川越岩原を攻下し、日暮里の城を攻らば、大功立所

大てんと云、西田伊豆が曰、あ莫の詞一理ありと云とも成
 田の守りも武功の將なり、（うらやま）て嚴しく防ぎ、八方より
 援兵いづらば、寡兵應ずる所、いづらん、一先武州を差置て、
 奥州の城を破り本を固めて、手つゝひをかけた時、其功合々
 らんと云、長尾これを用て、あ士西田の評議とも、一理あり
 と云とも、愚の城を攻るとき、西田の徳の如く却て難し
 及べし、亦奥州平治のこと、諸軍不棄肉の地、配自由やう
 ず功をたすとも、遅念せん、頼く、日暮里の城を余取時、
 天下掌中よあること、あ士の見るまゝあさきり、然もとも、
 利あり、以後を固くして、常陸へ手を伸べ、こと、當時の勢也、
 北条非常の功を立て、東國震動と云、なり、小敵すべからず
 武勇をふさび、して、和を清ハあをい、して、披官とせん、たのみ

我君交よ屯す、事必訴あ、成田我を討、一揆盗
 賊の思をなして、人数を差向ハ一當あて、武威をふる、そ
 よ、利害を説て、和熟をなす、義を励して、再手搦をなす、
 め、心易く、い、所を根本と、して、常陸下總、よ手を伸、安房
 上總、よち、なり、長尾景虎を、後援と、して、義兵を、以て、旗を、進
 ハ、武上の諸將軍、門、よ、降、へ、こと、疑、なり、と、演、説、し、れ、バ、人
 大、よ、服、し、一、色、小、楮、鹿、島、も、感、同、な、せ、バ、義、連、も、回、心、何、以、て
 透、渡、を、入、て、成、田、が、動、靜、を、う、ら、ひ、り、り

新館夜討附成田敗北之事

去程、成田下總、あ、義、連、の、屯、を、圍、中、し、諸、士、を、集、て、深、後、あ
 る、小、皆、盜、賊、の、張、本、一、時、の、驕、奢、を、威、を、張、の、こ、い、ま、こ、百、姓
 を、掠、る、の、害、も、な、れ、バ、其、後、よ、打、控、還、ま、志、く、な、ら、ん、と、云

りるうら。成田が一族勘解由と云者頭をあり。あもさそそ
 思ひぬるまよ。世度の大将ハ妙義山の隼ノ権化太郎と云
 曲者上京して。足利左京亮と改名し。長尾監物と云る智謀
 名譽の士。是を捕け。昔日武勇を歌せし。一色城戸小指を始
 り。力を早業武藝に達せし者五六人も。後より。各本營
 塚と云盗賊世に恐しき者なるが。奴一番よん服し。近ごろ
 権友太を討捕し。軍器彼是自餘の盜賊の類。よあそそ勢微
 かるうら。よ制せむん。ハ。最後の害をけり。今と。委細よ述る
 よ成田甚弱そ。たあ。ハ。容易の事。ハ。あ。ハ。一。先使を差遣
 て其様を窺ふ。身し。と有。ハ。ハ。勘解由。速。ハ。隱便の捌を
 さ。ハ。却て其威を増へ。唯無二無三。ハ。押掛て。撫切。ハ。討果
 し。後の禍を陰。ハ。と。何を。ハ。ハ。申。ハ。ハ。是。ハ。一。決

一。夜討と。ハ。し。め。士。大。將。ハ。成。田。勘。解。由。騎。士。世。瑞。安。士。強。力
 の。者。を。撰。て。五。十。人。打。物。那。太。刀。の。兵。也。射。お。三。十。人。人。数。雜
 率。う。け。て。三。百。餘。人。二。手。よ。手。配。を。是。夜。討。の。人。數。也。跡。備。と
 して。半。窪。十。右。衛。門。人。數。二。百。五。十。人。隊。伍。を。撰。て。押。寄。り。り
 味。方。よ。ハ。忍。の。者。追。く。よ。立。場。中。夜。討。の。用。意。人。數。の。手。配。で
 よ。告。り。れ。ハ。義。連。長。尾。を。呼。び。其。異。見。を。問。長。尾。完。爾。と。り。ち
 突。て。事。既。よ。り。れ。と。即。ち。分。を。な。す。よ。り。り。然。の。申。よ。ハ。
 義。連。例。の。古。八。騎。其。外。五。十。人。鹿。島。小。指。を。警。固。と。い。ふ。三
 百。人。あ。り。て。百。七。十。餘。人。備。一。色。時。範。を。招。て。涉。邊。に。一。大。事
 の。役。あり。是。より。西。よ。當。て。一。の。谷。あり。忍。で。お。れ。に。伏。し。來
 ぬ。ハ。隠。れ。故。より。時。起。て。成。田。勘。解。由。を。捕。り。必。殺。と
 こと。行。う。れ。と。雜。率。五。十。人。を。祭。り。れ。ハ。一。色。悦。ん。て。う。ら。立

しり、次は城戸持廣を呼んで、猪真半の時換合より突生座し
と現のたよ伏せ。人数五十人、次は山形季照を扱て、敵ハ
きく廻りて、先手敷少せば、二見駈合、其時不意に起て
繼發、まへに殊更、今宵ハ十六日、天気晴て、月明かり、土地
に列する馬上を以て馳散すに、益あらん、と馬上の連者を
才八人、雑兵二十人、其外の人数を以て、奥の亭後の方を固
たり、西回伊豆濱田五郎是を目とる、一統よ、配す、あハ為
明ハ義連よ、從て、館の手配相圖をさぐりて、靜に返て、ま
あより、斯といち、うす、成回、勦、由、惣、人数を、合、ま、ま、あ
流石よ、武勇の家よ、馴るるとして、江河の流るるが如く、以
て、押、寄、悉を、弛、く、固のやうすを、伺、あ、よ、く、寝、た、り
と、か、て、着、も、あ、れ、ハ、時、至、ま、り、と、凱、を、も、揚、せ、一、回、り

かけやを以て、門を微塵よ、お破り、大座へ、せり、勦、解、由、あ
しりを見廻して、敵ハ、油、改の、あ、ま、や、早、う、あ、い、れ、と、下、知、す
する、ま、よ、正、面、の、板、戸、を、く、と、開、ハ、火、ハ、万、燈、の、如、く、大、將
義、連、錦、の、直、密、小、金、札、の、緋、系、緘、の、禮、よ、龍、頭、よ、鞆、打、あ、る
甲、を、着、し、重、衣、の、ち、を、あ、杖、よ、つ、さ、采、帯、押、取、さ、る、有、様、安
よ、惣、大、將、と、お、召、さ、て、威、風、あ、つ、り、を、釋、せ、り、右、手、の、方、よ、長
尾、為、明、系、系、緘、の、禮、よ、袴、卷、し、た、右、よ、鬼、の、如、く、ひ、り、英、士、は
六、人、多、槍、長、刀、を、搦、込、て、勢、勢、天、よ、滿、て、下、知、を、待、為、明、大、將
あ、げ、何、人、な、れ、バ、理、不、尽、よ、夜、也、を、言、ひ、お、あ、さ、よ、敵、對、の、覺
す、し、盜、賊、の、族、り、名、宗、て、勝、負、は、い、へ、し、と、呼、は、る、よ、勦、解、由
を、系、帯、て、己、等、隱、謀、の、企、あ、る、よ、徑、進、よ、固、て、成、回、下、知、す
う、士、大、將、同、姓、勦、解、由、ひ、り、尋、常、よ、繩、を、か、ら、る、と

云々のまゝも尾かきくと突て成田殿はら矢の吉家も違
する各将一休の使もなく何ぞ討まを向らまへ何れも原
城主の名をうり押寄しりと受とりお色跡をせと下
れハ竹澤泉清根奉志廣ま先日進之續て力士十三人切先
を拵て切てうり群立るま中へ會釈もなく切て入縦横
小働バ成田が大勢逐易して四度踏よがる成田怒て敵ハ
小勢を押包て討べしと下知すれば歩立の五十人一同ハ
切て掛巴親兵をま中取困めハ流石の英士も力勞れ及
色も刀もくれバ長尾相圖の太鼓を打鳴まバ左より小指
半七郎右よりハ鹿島悪次郎時を化ておて出秘術を考
て切立るされバ二人が大刀先ハ盤玉を轉が如く前よ
あるとすれば忽ちうりて後よあり左を討バ右よ現き

子変方化晴玲稔妻の如く暫時はあ人う承まうけて力士廿
四人を切伏まバ残る者とも仰天し一方へこ捨りあり味き
果する計也勳解由大は歎息しすふ増る承れなり二
先うといふ色よ何うハ肯ん者先もと礼立て敗走を小指
麻呂清よりかあくと教く追て透間をくれバ勳解由ハ
肉は軽し切り兵高橋五小南三郎取て返して駈向ふ
商人是を力るよりもやうや取をさるものうを出物刀を
んと切て掛巴潜く銭と刀をうり小指は刀を赤た刀よ
小南これを受弛し二言まかりて失より悪江郎色うけて
あさりや小指とやめあつら付入と拂ふた刀よ高橋あま
たぐ車切もをなりにたりも尾下知して追捨よと人数を
ゆらして何ふあも幼ね中ハやをさく馬立車一惣人数を

一手となり、追討せざるハ人数の不定と知らざりたり押返
して亦たハ必ず勝利を取べしと俄に備を立布こころへ
お馬とぞくも、決地の音に驚く。一手の人数堤中より起立
て時の色を伺うけ、先は進するハ城戸持廣例の大槍
掲てあつくりも、死盗賊から城戸が首を足と成しと
ま川ちりらに突て掛る。ひらりする伏勢成田が人数
寡して、遷疑する中へ割て入も、少くもけぬけ、知を人々
き而を如く、究竟の兵士十六騎銃を背して突付り成
田らあり、あを夥しき勢を先直搦山は仕務し、英士を
引寄せハ、海軍兵立是旨く右往左往は落てゆく、長尾交
つと下知をす。又追討せし、河も、終極無太郎其は進

て百人を押し、城戸も勢と二まは別れ、隊伍を崩す。伏
追討せ、巴勘由ハ素に相違して、後鏡も勇にそと、其切
小筋が、兵僅十騎、相敵は遠く放、や氣あつて
暫く馬をさるる、あへ引き、の方の谷間より、一手の人数掛
り、まは、つめと、驚き、見よ、まは、一人の士、其の丈六尺有餘は
して、兎疑左右より、眼の光、鏡の如く、大音あげて、我々に
立て、汝を約しと、之と、呼ら、ハ即、一色太郎左衛門時義也
勘由、由主、後、ま、あ、怒り、道を尋て、逃ぎんとす。五拾
人の兵、取せ、り、勘由、是非なく、一色を、駈合、馬を
を、以て、馳、急、んとす。一色、得、り、と、を、ひ、り、き、追、討、押、返
結、く、亦、ち、あ、り、花、掛、て、馬、の、右、腹、果、と、なる、大、力、に、あ、ら、れ、て
馬、ハ、棹、を、立、り、ら、ぬ、く、な、り、し、る、い、し、海、人、成、田、勘、由、其、逃、根

ありしころを中少く小獵よりいさむ軍兵とも主を討
 ちしと掛るを眼を刺さるると白眼バツのともく逃
 を五十人の安率追信く生捕て館をさして立歸るは
 牛窪十右衛門ハ二百五十人を具して静よおせ来りし
 先きの使立御で敵さしより強勢なり早く加勢小進
 と告るにをとりき人数の列を乱しつ孫にもんて馳行
 に一樹茂りる所より時の色を嘆と阿比山形八郎富宗
 出らる矢をとりて月の光ハ明々差信く射得ん先
 小進軍兵とも古騎より將基倒しに射伏より牛窪大
 に怒をなす敵ハ一人を押取巻て討られと人数を左右へ
 引分る柄巻を刀を合せ山形とつと色くまハ十八騎の馬
 上の達者一参に糸ぞ多勢の平へ糸めて縦横無碍よ糸

割くま本に進む兵を長刀をひて切拂く働くも我馬武
 者も馳走りま安率忽崩し八方へ逃散より牛窪今ハ詮
 方行く山形を目掛て馳走りを一矢に命を止んとす取上
 しく何れもひらん弓を射つると投擲て大手を周き馬宗
 へおらるる太刀をのひらり腕首相てつめと引らせ馬上
 にひんちく搦捕する奴系追まは館をさして立歸り

義連与成田和睦附山形季照使節之事

夜既にぬくれハ長尾下知して討死を尋るに雑兵七人即
 死す貞十餘人まで騎士ハ一人も恙なく義連大に候ひ
 威儀を改め看おに於て生捕對面あるべしとて軍札をい
 て引出さる成田勲由を遙より形多し自然の威も押さ
 て流石の成田思は平伏されは後て牛窪を引出した身



勢戦果て仰き刀を奉りて。義連自ら立て、二人のいさ
めを解、一問は請じて思ハざる成田殿の討手騎入ともり也。
某苟も是利の庶流にして民則は沈淪し、一生農家を終ら
んとし、幸は英士吾を挫き、隨從して一家を介し、世も敵
て無名、の兵を起し、心りし、故は世所に住居せども、百姓
を掠す、思城中の諸士は害をす、事なり、然るに昨夜
大勢を以て夜軍を遣はる、成田殿の西に一面と、心は、然
ども我えより恨み、汝を人を知り、思す、即思城へ帰
し、せよなり、某、意旨を承て、向後、鋒指おれ、死様、小
計、小方、一、成田殿、大勢を以て、攻も、小勢も、亦防我
の手、段あり、疎畧の軍、初あり、六、落城、一、舉にありんと、近士
小余、酒を、味で、能く、酔で、盃を、たられ、人、恩義を、感

し、威風、一、服して、後で、これを、戴き、下、總、さ、え、未、君を、討、せり
小心なり、某等、久く、英名を、きき、殊に、家臣の、智勇を、傳へ
武備を、試ん、こと、是に、あく、こと、なり、と、主命を、受、す、自ら、戦
夜の、軍を、遣、せり、殊に、戦法、常、ふ、あらず、計謀、亦、密なり、四五
軍の、武勇、古今、絶倫、なり、思、は、活、命の、恩を、抱、き、ま、其、寛
仁を、感佩、と、某等、杜、す、に、あり、彼、家、に、君家の、軍配、を、られ
る、もの、は、久、し、也、立、場、で、主人、は、罪を、謝、し、生死、は、主命、に、任
せ、る、と、礼、義、を、く、相、あ、ま、し、義、連、即、眼を、お、り、を、尾、が
り、て、是を、あ、り、し、む、去、時、を、あ、り、て、あ、人、為、明、に、對、し、手、り、及
ぶ、貴、方の、計、畧、元、初、の、を、あ、り、あ、り、あ、り、ず、あ、家、に、睦、なら
ば、必ず、門、下、小、籠、て、ま、よ、べ、と、礼を、辱、く、し、次、小、五、英、士、の
姓名を、録、し、ふ、り、て、長、尾、一、く、あ、れを、傳、へ、答、を、い、り、り、て

送り渡されれば、あ人舌を巻くも君臣如^く此^の志^の雄^の物^を
 集會せしこと滅^し天^ののりせる所^{なる}んと忍^の城^への^ま海^りけ
 るに、ト總^の書^ハハ昨^夜あ人生^捕れらる^る様^子を^聞て、大^に恥^づけ
 死^に戦^をを^送んと^深き^ある^所、あ^へあ^人す^こく^と立^ゆき^バト
 總^書大^に恨^みて、始^末を^とり^よ、あ^人拜^伏し、放^軍の^罪を^繼
 生^捕の^上義^連對^面して^意旨^はと^一く^に相^違たり、成^田成^心
 あつて滅^し信^義を^以て^志人^{なり}、不^意に^夜軍^をう^けし^こ
 是^我の^徳行^り、お^將我^懇誠^に返^り與^ふこと^心中^甚恥^入
 ろうと軍^の様^子を^問ひ^に、あ^細に^次才^をを^り、五^士の^勇
 戦^しと^人數^方の^人數^をを^以て^我よ^らも、中^に務^{こと}あ^らざ^らず
 と、一^くよ^まり^れバ、成^田の^も歎^息し、滅^し天^のの^繼る^英傑^の
 時^を待^てむ^をま^るの^之館^民康^のの^武勇^をを^以ても^みる^よに

退^治の^あら^ると^若物^をを^あら^して^一勇^士を^擡て^あれ^を
 増^嶺の^内、提^東百^五十^貫の^地を^割て^法士^の俸^祿は^務由
 念^のあ^らせ^られ^バ、義^連は^志を^長尾^は、向^は、義^明の^も
 ハ成^田の^は、使^者に^忍の^威を^忍れ、二^はは^家を^助命^の意^息は
 彼^の先^をを^交せん^バ、彼^の志^をを^あら^しす^所、あ^らざ^らず^取て^自用^す
 小^なら^し一^時の^事なり^と、こ^の小^於て^義連^對面^{して}、あ^らざ^らず^芳
 志^をを^謝し^の、使^者を^能く^あら^しめ^られ^バ、使^者亦^感服^{して}降^す
 却^て、さ^らハ^謝使^をを^まご^ん、あ^らざ^らず^と、後^のあ^つて^山形^八郎
 季^照、極^りな^れバ、季^照、物^をを^あら^しめ^らる^へて^威儀^つら^うの^忍誠^を
 まで^て其^旨を^述べ^られ^バ、ト^總書^先を^受て^我自^ら對^面し^て
 武^儀を^あら^しめ^らる^へて^其威^をを^あら^しめ^らる^へて、ト^總書^礼服^をを^あら^しめ^らる^へて
 看^し、一^族八^人を^座に^列し^て、七^人を^座に^連り、ま^らり^武

改物奉^ま行^り左^さ右^{みぎ}の座^まを^す中^{ちゆう}へ^り縁^{えん}通^{とう}の騎士^{きし}四^よ五^ご十^{じゆ}人^{にん}小^こ貝^{かい}足^{あし}まで
糸^{いと}が^り弓^{ゆみ}鉄^{てつ}の安^{やす}平^{へい}白^{はく}洲^{しゆ}は^り堅^か固^こす其^{その}跡^{あと}天^{てん}晴^はき^らび^やり
牛^{うし}産^うの^まて^ら山^{やま}形^{かたち}八^{はち}郎^{らう}女^{によ}も^も徳^{とく}せ^ら諸^{しよ}士^しの^{ちゆう}中^{ちゆう}を^かか^くと
物^{もの}も^も来^きる^ま旗^{はた}面^{めん}目^めひ^とく^く画^えめ^く無^む双^{じゆう}の^い義^ぎ男^{なん}も^も勇^{ゆう}威^い眼^{がん}
中^{ちゆう}は^りあ^らう^まれ^り一^{いっ}間^まを^まて^てむ^んど^と坐^まし^て頭^{かぶ}を^さげ^て禮^{れい}を
ま^せハ^ハト^ト總^{そう}ち^ち色^{いろ}を^さけ^て左^さ京^{きやう}殿^{でん}より^の使^し者^{しや}大^{だい}義^ぎなり^と云
々^々れ^ハ禮^{れい}で^て平^{へい}伏^{ふく}し^て頭^{かぶ}を^あげ^て主^{しゆ}人^{にん}某^{なつか}を^使し^て中^{ちゆう}に^ある
意^い趣^{しゆ}ハ^ハ々^々度^た不^ふ意^いの^ま変^{へん}は^りの^りて^らお^お家^け和^わ睦^{ぼく}相^{さう}調^{てう}ハ^ハ々^々達^{たつ}て^て篤^{とく}
志^しの^り使^し者^{しや}小^{せう}形^{かたち}也^{なり}殊^{こと}更^{さら}家^けを^購ふ^士侍^し祿^{りやく}の^ち地^ぢを^恵り^て
事^{こと}感^{かん}佩^{はい}も^も堪^たへ^ず右^{みぎ}の^り謝^{しゃ}志^しや^も進^{しん}ん^が為^なり^て由^{よし}孫^{そん}の^り孫^{そん}種^{しゆ}以^もて^志
る^まと^して^て進^{しん}呈^{てい}せ^りむ^むる^も而^{しか}り^と兵^{へい}舌^{じゆ}流^{りゆう}る^が如^{ごと}く^神體^{たい}容^{よう}
尤^な厚^{あつ}し^と云^ふも^も聊^{りやう}も^も屈^{くつ}さ^るお^おり^下總^{そう}ち^ち甚^{しん}その^り人^{にん}なり

を^あ愛^{あい}して^て汝^{なんぢ}牛^{うし}産^うを^ま捕^とり^て勇^{ゆう}士^しなり^て左^さ京^{きやう}殿^{でん}の^り因^{いん}は^り汝^{なんぢ}が^り如^{ごと}く
放^{はな}す^ま某^{なつか}が^り如^{ごと}く^未達^{たつ}の^り者^{もの}も^も一^{いっ}寸^{すん}功^{こう}を^まさ^ること^{あり}然^{しか}も^も長
尾^お監^{けん}物^{ぶつ}が^り智^ち謀^{ぼう}ハ^ハ古^この^り義^ぎ經^{きやう}正^{せい}成^{せい}と^も云^ふも^もな^んが^り其^{その}右^{みぎ}は^り出
ん^ん一^{いっ}色^{しき}城^{じやう}戸^こ小^{せう}指^{さし}鹿^か島^{しま}打^{うち}ん^んと^り勇^{ゆう}力^{りき}武^ぶ傲^お怒^どハ^ハ古^こ人^{にん}の^り能^{のう}
者^{もの}や^も某^{なつか}が^り如^{ごと}く^ハ指^{さし}教^{きやう}百^{ひやく}を^まさ^るも^も如^{ごと}く^ハ君^{きみ}の^り代^{しろ}に^て武^ぶ道^{だう}は
富^{とみ}の^り大^{だい}なる^も小^{せう}なる^もや^も基^き教^{きやう}の^り中^{ちゆう}に^て主^{しゆ}君^{きみ}の^り威^いを^まさ^る
自^{みづか}來^き田^{でん}家^け因^{いん}の^りを^まさ^るも^も成^{せい}田^{でん}再^{さい}同^{どう}と^り酒^{しゆ}を^命じて^て吾^{われ}を
お^おの^りま^は平^{へい}伏^{ふく}して^てこれ^を戴^{たい}し^て眼^{がん}を^まさ^るも^も成^{せい}田^{でん}を^見
諸^{しよ}士^しは^り向^{むか}て^て突^つき^て二^に騎^き當^あり^ての^り者^{もの}も^も汝^{なんぢ}後^ご汝^{なんぢ}言^{げん}か^らり^て
左^さ京^{きやう}殿^{でん}は^り射^やして^て世^よを^まさ^るも^も深^{ふか}く^もい^ます^めて^て真^まへ
入^いる

足利大京亮義連真方出産男子誕生

附母公逝去英婦人等働之事

斯て月日過て義連の真方女産む男子出生なり母君
の歎ぬと親の恨み限り即龍丸と名づけたり時又天文
廿年辛亥なり滑勢を巻ひ密に諸侯に告ひ人数を招き
長尾工夫を廻りして創業の承立種く小その筋を中
時来てハ大合戦を捲て武威を東國に耀ひ根柢を
又や生れ流轉のちるひ測べうす母公假初の痛ま
しき日を追て重くなり今や食事堪れ力瘠れて旦夕
危うりされバ義連夫婦を始く一家中周章斜たらず
城へ醫をこよてこれを診するに病重いま膏膏よ入て
茶餌の届へきあよわむとと諸醫之をよむを以て義連

心魂貞あらずかゝりてお救側を離す抱擁しぬとも
いんともあはへうす強し眠るが如く身をいぬふ歎てり
へらぬことなれば壽送をいふもして熊谷寺よこれを葬
せ是より義連床に伏て哀毀心に絶ゆるより長尾為明大
に練て永離のむげさ一旦骨を裂の悲ハ孝子の心なり
君と大業を具して祖先の佳名を慕ひ高時氏族の傾運を
同んとす然るに天下の倚ごころ偏し君の一者あり母君
英ゆすし常にか家再興を心とす悲哀却て孝女を
省る戦器軍事大なる位巻たりんと何ぞを以て速くは
義運大に悟りぬは是より軍事を免戦器を行儀しぬハ
英士ども大に悦て訓練日熱せり日較練て四十九日
に及り時真方志のびて熊谷寺へ佛僧あり一色城戸山形

が妻與付きて小指半七郎をを殺し其外の士十数人よ
 てまゝでのひらる寺中をて暫く休息の中小指半門前の
 酒店よ立寄心おの事影合て時を移りてに玉繩の城
 主小糸左衛門大まが家士十四五人近邑を馳廻り跡を
 かり先達て無双の薙城の功を望よ着て備無人は働け
 まことも尚時小田原の親臣の家士をれば諸人を保よ控至
 ぬは日熊谷寺よ来り不圖真方は附添り三英士の美酒を
 見て大よころ浮き東も廣くことともこの家英人三人を
 捕りハ城よ奇兵の殊事ありゆるをもあらん戦國の間よ
 くやまある女よても味あて飲らさせ酒の相手を言ん
 べしと寺中の出家をて三人の女をつまこころきとて出
 家大よ騎て彼ハ即足利義連の真方の女中なり跡英人

家臣の妻女なりおのひとゆりの人といふも一色有御
 せは古河の晴氏より池を吹せ我くたにましておに
 と成り候とてもかからる者あまうとて免や角つ奴ら
 ハ日本一の高名野々我く物の教とも思ひんや是非つき
 事とて言りに出あはとうらのぬき言りく庫裡をさして逃
 りハ由者ともり我荒荒としく赤井捕来ると鬼の衆る
 盤男四人を面かく一間の肉は踏めてやあそれなる女系
 酒の相手に来るといふと云バ物忍坊んと早つこと知る
 新むれば城戸が妻神妙よを酒の相手をばなさんと
 ハ赤井死事行ら主人の位に居ハ心よゆうとぬ時
 赤井ありとさやげなくとられバ男どもわ河をわけてさ
 あらバ僅の間あきを来るとよ供の間ハ欠きまことな

まごころくまのば、操中一まの形が妻無禮行る人々うま女
 むかの此取入、桑田もなぐ推察、酒の相まをせよらん、
 外外なる詞酒狂なる、許へし、さなくハ、やうらゆる、
 列々相は獲を立女とありハ、利うまに、実あり、無礼
 智人、なよそ、まじい、びい、るると、其候を、ん、引立、
 ころせん、と、一人、まじりと、考て、まを、るを、山形、妻、心、
 引、強、く、投、出、せ、バ、推、察、行、る、女、め、と、残、三、人、立、
 一、も、が、妻、た、ち、奉、上、さ、ま、由、ら、ぬ、と、原、と、二、人、を、
 指、ま、六、肩、骨、控、ん、で、左、右、へ、傷、る、其、俣、一、人、を、
 投、出、せ、バ、世、騷、動、を、さ、く、り、も、小、指、半、七、郎、
 所、る、曲、者、一、回、ま、う、け、つ、け、搦、る、を、引、手、右、ま、
 太、刀、引、ぬ、け、ハ、真、方、遙、く、割、し、の、ひ、と、日、ハ、大、切、
 の、目、か、ろ

たり、命、を、助、て、逃、ら、ん、と、あ、り、な、れ、ハ、半、七、郎、
 伏、て、帰、館、ま、て、死、命、せ、よ、と、十、二、人、の、奴、
 わ、げ、海、棠、の、大、木、へ、搦、つ、け、こ、ま、
 情、と、伊、帰、館、を、併、せ、ハ、曲、者、も、仰、天、
 の、大、力、也、ま、し、と、舌、を、若、そ、感、
 婦、人、の、う、る、働、ハ、た、め、ハ、少、
 事、も、ナ、リ

